



我が校の強み弱み分析・評価シート

■教育目標 『八草伸』（やくしん～躍進～） 豊かな心、確かな知力、たくましい実践力

調査目的 ◇全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

結果について（全国や県との正答率を比較し、強みと弱みを分析）

<教科の強み・弱み>

教科ごとの分析から、国語・数学・英語それぞれにおいて、学力の特徴や課題が明らかになりました。

国語では、平均正答率は、全ての問題に対して全国と県を上回り、十分に力を有していることがわかりました。一方、擬態語の効果を書くこと、自分の考えを書くことに課題が見られました。

数学では、平均正答率は、全ての問題に対して全国と県を上回り、十分に力を有していることがわかりました。

正答率の低かったものとしては、「数の性質」で事柄が成り立つことについて文字式を利用し説明するもの、「関数」でグラフを読み解きその性質について用語を使い説明するものがありました。

英語では、平均正答率は、問題に対して概ね全国と県を上回っていました。特に、語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を書く・読む力が身につけていることがうかがえます。また、英語の授業に興味を持っている生徒の割合も高かったです。やりとりの多い英会話を聞き、内容を理解した上で問題を解くこと、自分の考えや理由を英文で説明することが低かったです。

<質問紙>

生徒への質問結果から、生活習慣や学習意欲、学校生活、自己認識について、さまざまな傾向が見えてきました。

生活習慣では、朝食・起床・就寝については全国平均並みで、一定の生活習慣のリズムがあるように見えます。

学習意欲では、英語に強い関心を示しており、将来に積極的に活用したいと考えています。ただ、国語と数学に関しては、将来に役立つという割合が低く、実用性や興味関心を大切にしていきたいところです。自宅学習の時間については、平日も休日とも十分に取れています。タブレットの使用頻度も高く、文章作成や情報整理を得意とする割合も高かったです。ただ、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で工夫するや読書の時間の割合がやや少なく、自主的な学びに課題があるように見えます。

学校生活では、では、「困りごとがあるときに相談できる」や「人と違う意見を言っても否定されない」という割合は高く、一定の安心感を持っている様子がうかがえます。学校での悩みについて、親や家族と話し合う人がやや少ない傾向が見られました。

自己認識では、「自分には良いところがある」と答える人もやや少なく、また「困っている人がいるときに進んで助ける」の割合も低かったため、義務や強制のない中で、自分で考えて行動する力をつけていきたいところです。



◇指導の充実に向けて

- ①朝学などで、反復学習をする
- ②自分の頭で知識を整理し、自分の言葉として記述できるようにする（言語化の練習）
- ③好奇心を大切にし、将来の夢や実生活との関係性を深めて、真の学力を探究していく
- ④英語の授業では、デジタル教科書を使用し、単語や本文のネイティブな発音を聞くことを大切にする